

船舶事故調査報告書

令和2年5月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和元年5月3日 13時50分ごろ
発生場所	山口県徳山下松港第3区 徳山下松港地ノ筏灯台から真方位204° 1.1海里（M）付近 （概位 北緯34° 02.0′ 東経131° 46.5′）
事故の概要	貨物船太平丸は、北北東進中、錨泊中のケミカルタンカーSUN PRINCESSに衝突した。
事故調査の経過	令和元年5月24日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A ケミカルタンカー SUN PRINCESS（パナマ共和国籍）、2,371 トン 9333113（IMO番号）、SHOKUYU NAVIGATION CO., S. A. B 貨物船 太平丸、199トン 134063、太平海運有限公司（船舶所有者）、徳山海陸運 送株式会社（運航者）
乗組員等に関する情報	A 船長A（大韓民国籍）、一級航海士免状（大韓民国発給）、締約国 資格受有者承認証 船長（パナマ共和国発給） B 船長B、五級（航海）
負傷者	なし
損傷	A 右舷船首部外板に凹損を伴う擦過傷 B 右舷船首部フェアリーダーに凹損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	A 船は、船長Aほか15人（インドネシア共和国籍13人、大韓民 国籍2人）が乗り組み、錨泊中、船長A及び航海士Aが目視とレー ダーで左舷方約1.5Mから近づいてくるB船を認め、B船の動向を 監視していたところ、右舷船首方370m付近となったB船にVHF 無線電話での呼出しをするも反応がないまま、右舷船首部にB船の右 舷船首部が衝突した。 B 船は、船長Bほか2人が乗り組み、船長Bが、右舷船首方約3M に錨泊中のA船を認め、約10.5ノットの対地速力で自動操舵によ り北北東進中、入港前の書類を作成しようと思い、船橋左舷後部の海 図台で書類を作成していたところ、A船と衝突した。 船長Bは、VHF無線の使用時のみ電源を入れており、本事故当 時、電源を入れていなかった。
分析	A 船は、錨泊中、B船が衝突したものと推定される。

	<p>B船は、北北東進中、船長Bが、船橋左舷後部の海図台で書類を作成しながら航行を続けたことから、錨泊中のA船に衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、B船が、北北東進中、船長Bが、船橋左舷後部の海図台で書類を作成しながら航行を続けたため、錨泊中のA船に衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 操船者は、船橋当直中、操船以外の作業をして見張りがおろそかにならないようにすること。 ・ 操船者は、VHF無線を常に聴取できるようにしておくことが望ましい。